

世界的な祈りに対するミノル兄弟からの励ましの言葉 2

御父は祈った者たちに報いてくださる方である

今夜おそらくあなたがたはわたしの負担が想像できると思います。それはとりなしの祈りに関してです。この木曜日は4月の最終日ですが、それはこの世界的な24時間の祈りを30日間祈ってきたという意味です。わたしはこの30日間が遅かったのか早かったのか、隔離の時期にあなたがどのように感じたかわかりませんが、わたしは瞬く間に過ぎ去ったと感じています。率直に言って、この30日間の間で何時間が、何分が永遠の価値を持ったのか、わかりません。しかし、主に感謝してるのは、この30日間で主が彼の恵みによって何かを成してくださったと感じています。それはこの30日間の祈りです。多くの兄妹姉妹がこの祈りに参加しました。実際に何人かはっきりと告げることができません。登録した人もいれば、登録していない人いるからです。すべては主の御前にあり、主だけがご存知です。人の心、そしてわたしたちの内なる部分を知っておられる方は、ただ主だけです。

クローゼットの中に入って隠れた所で御父に向かって祈った方も多くいると思います。御父はそれらに報いてくださいます。パリサイ人たちは断食して、通りで祈り、数多くの言葉で祈って自分に注目を集め、人から誉れを得ようとしていました。そして、主は彼らがすでに報いを受けてると言いました。しかし、あなたがたは隠れて見ておられる父から報いを受けると言いました。ですから、わたしたちはみなこの隠れた時をこの30日間、建て上げ、積み上げてきたと思います。積み上げてきた者たちはまた、御父からの褒賞も積み上げてきたことでしょう。御父は祈った者たちに報いてくださる方です。今日すでに褒賞があったと思いますが、来るべき日々さらに多くの褒賞が与えられるでしょう。ですから、わたしたちは彼の御前で祈りを継続することを願うのです。

とりなしの祈りを継続するための供給

国際的な同労者たちは二日前、この30日間の祈りを締めくくることが決断しました。これはイベントではなかったと思います。また運動でもなかったと思います。しかし、わたしたちが行なってきたことは24時間さまざまなタイムゾーンで国際的に祈ってきました。あなたは枠組みを決めて祈ってきたでしょう。わたしたちはこの祈りの事柄を推進するつもりはありませんが、これが主の負担であると感じています。

この今日のとりなしのための負担は、30日前よりもさらに強く、さらに大きくなっていますし、またそうであるべきです。ですから、ここでこの補助輪を外して、いま自分で自転車をこぐことができるようになったと思います。有機的にしないといけないさまざまな事がありますが、すべての事はわたしたちが祈りを開始するのに、動機づけられるのに、訓練するのに役に立ったと思います。特にこの祈りの事柄に関して前進することができました。しかし主は、わたしたちが次の段階に入ることを願っておられると思います。次の30日間はさらに前進しましょう。この「絶えず祈る」のホームページはそのまま稼働しています。

自由に使ってください。さらに時間枠を登録したい人はなおも登録することができます。そしてメールを受けている人たちは、自動的に日ごとのリマインダーを受けるでしょう。その日の祈りの項目と共にメールを受け取ります。ですから、あなたはこの時間枠にサインアップしていなくてもメールを登録してる人はこのメールを受け取ることができます。もう一つわたしが言いたいことは、兄弟たちが日ごとに小さな段落の御言や務めの言葉を供給したいと思います。それはとりなしの祈りに関する抜粋を付け加えたり、そのようなビジョンであったり、重要性であったり、指示であったり、例証であったり、事例だったり、そしてどのように祈りの人となるのか、どのように効果のあるとりなしの祈りをするかなどに関する、務めの言葉を送ります。原則的に何かあなたがたを少し押し出すようなことだけでなく、あなたがたを養うものとなりますように。

祈りは働きであり、また労苦でもあります。それはアブラハムがロトを救い出した時、この王たちを打ち破った時、メルキゼデクが来てパンとぶどう酒を持ってアブラハムを養いました。あなたがたの多くも経験したと思いますが、あなたがこの祈りの時期を経過した後、疲れた果てたという感覚ではなく、乾きや供給不足ではなく、むしろその反対に、わたしは確かに証しすることができますが、祈った後わたしは力づけられ、養われたと感じます。正しい祈りはわたしたちを養います。わたしたちを供給し、わたしたちを支えます。一種の食物となります。主も言いましたが、「わたしはあなたがたの知らない食物を持っている」。それは神のみこころを行なうという食物です。ですから、祈りというのは、わたしたちが神のみこころを行なう最初の方法です。それでどうして供給されないことがあるのでしょうか？また5月1日から開始したいと思います。まだ登録していない人は、どうかホームページに行って登録して、この祈りに加わってください。

うまずたゆまず祈ることを継続する

そして、わたしはまずここで言いたいことは、この考えを継続することです。この非常に重要な思想だけでなく、この行為、実行、すなわちうまずたゆまず祈ることです。何度も言ってきましたが、この「堅く持ち続ける」とか、「うまずたゆまず」という言葉は特にパウロによって何度も使われました。特に彼が聖徒たちに祈るように命じた時に使った言葉です。うまずたゆまず祈りなさい。ローマ人への手紙、エペソ人への手紙、コロサイ人への手紙でも使われました。そして原則において、主の祈りに関する言葉は福音書の中で常にこの根気強さと関連づけられていました。

例えばこのやもめが不義の裁判官に祈っていた時、彼女はしつこく祈りました。しつこく、うまずたゆまず、訴えました。神は耳が聞こえないのでも、心が麻痺しているのでもありません。主はご自身を不義の裁判官に例えましたが、この事例から見ると、それは非常にこの事例が複雑だったのではなく、わたしたちのうまずたゆまずさをテストするために、根気強さ、負担の深みをテストするために、主は黙ってることがあるのです。

形式的に祈るのではなく、誠実に、真剣に祈る

兄妹姉妹、わたしたちの祈りが聞かれない、答えられない、重みがない、効果がないのは、この誠実さに欠けているからです。言い換えると、真剣さに欠けているからです。あなたはただルーチンな方法で、形式的に祈るので、効果がないのです。召会の中の祈りの多くは、残念ながらこのカテゴリーにある祈りが多いです。このような一種の習慣であったり、一種の涙がなかったり、真剣さがなかったり、誠実さがありません。

このヒゼキヤは例えば、良い王でした。ダビデの後に出てきたのですが、彼はこの重病にかかりました。そして何か内臓の問題だったと思いましたが、壁に向かって、神に祈り求め、涙で訴えたのです。主は彼をいやし、数年間を彼は得ました。預言者イザヤは彼の所に行き、「あなたは死ぬ」と言ったのです。しかし預言者が去った後にヒゼキヤは祈り始めました。イザヤがその建物を出て、外庭を出ようとしていた時に、神は彼を止めて戻るよう告げました。そして主は王にもう 15 年間で特別に与えると言ったと告げなさいと言いました。ヒゼキヤの誓願の誠実さ、真剣さが、主に触れて直ちに主の反応を得たのです。ですから、このことを軽んじてはいけません。心のない祈りは、もちろん祈らないよりは良いのですが、心のない祈りは神に届きません。

証しの言葉によって、小羊の血によって、祈りを妨げる敵に打ち勝つ

なぜうまずたゆまず祈る必要があるのでしょうか？ それはこの宇宙にあるものはすべて空中にあるものはすべて、邪悪な霊や反逆的な勢力も含め、地上の反逆的な人や悪魔や悪霊と一つである人たちは、神に反対しているだけでなく、神の行動や目的を妨げるだけでなく、特にわたしたちに攻撃してきます。わたしたち聖徒たちに攻撃してきます。悪魔は兄弟たちを訴える者と呼ばれています。兄弟たちを昼も夜も訴えています。なぜでしょうか？ なぜサタンは兄弟たちを訴えるのでしょうか？ 信者たちを訴えるのでしょうか？ 多くの理由がありますが、そのうちの一つ、最初に述べるべきことは、それは良心を攻撃し、良心にとがめがあるように、平安がないようにさせるのです。良心というのは、わたしたちが正しく効果のある方法で祈るために必要なのです。ですから、多くの時あなたが祈ろうとした時に、訴えがやってきます。そのような経験をあなたも持ったことがありますか？ わたしは何度もあります。その前は何の感覚もないのに、あなたが祈り始めると敵から訴えが来ます。

ですから兄妹姉妹、わたしたちは証しの言葉を使う必要があります。それはサタンに向かって霊的な事実を伝えて、「黙れ」、「退け」と言って追い払う必要があります。それは証しの言葉によってです。それは霊的な事実を述べることによってです。例えば、悪魔に向かって、「お前は頭を打ち砕かれた」と告げる必要があります。死の大能を持つ者は、十字架上で滅ぼされたつ告げる必要があります。「十字架上で、お前は主によって滅ぼされたのだ」と宣言する必要があります。わたしも時々あります。わたしたちの証しの言葉によって敵に打ち勝ちます。

また小羊の血によって良心が覆われる必要があります。祈る前に必ず、主の血を必要とします。良心を覆う必要があります。また義の胸当てが必要です。それはこの投げやりや的からの攻撃から防ぐためですが、この投げやりはわたしたちの祈りを妨げ、わたしたちを押しつぶし、圧迫して、わたしたちを黙らせ、祈らせないようにしています。あなたが祈ろうとすると頭痛が来たり、祈ろうとしたら、なにか変な感覚があったり、体温が上がったりとか、あらゆることが起こり得ます。これらすべてはあなたの祈りに反対してるのです。

とりなしの祈りをするためには、戦う必要がある

ですからリー兄弟は言いました、「うまずたゆまず祈りなさい」。それは上流に向かって船を漕ぐことのようにあなたがこがなければ、流れに押し流されて下流に入ってしまいます。ですから、このようにうまずたゆまず祈ることは、多くのエネルギーを必要とします。ですから、兄妹姉妹、知るべき重要なことは、あなたが祈るときエネルギーが必要であるということです。あなたは自然に祈り、簡単に祈り始めることはありません。意図的に、意識してとりなしの祈りをするためには、戦う必要があります。決意して自分自身を力づけて、自分の帯を締めて、このように祈る必要があります。このためには、主によって力づけていただく必要があります。そして霊が必要です。主を賛美します、言葉も必要です。これらすべてはわたしたちを強めるためです。そして血潮は防御の武具です。それによって、わたしたちは祈りの戦いを戦うことができます。

とりなしの祈りを継続するための実行上の要点

主との徹底的なやりとりをして、主に対して誓願を立てる

わたしたちは、わたしたちを助けるいくつかの点に来たいと思います。これらの点は、リー兄弟がわたしたちにくださったものです。いくつかの点は、過去数週間で、すでに話したと思います。わたしたちすべての人に助けとなる、さらにいくつかの点を交わりたいと思います。

一つ目は実行上の点であり、それはわたしたちが主と徹底的なやりとりを持つ必要があるということです。あなたがたの何人かは最初の30日間の祈りに参加し損ねたかもしれませんが、問題ありません。それについて残念に思わないでください。次の30日間に加われば良いのです。過去を振り返らずに前を向ってください。あなたが準備するには、今が良い時です。次の30日間、主との徹底的なやりとりをもって、あれやこれをやりとりするのではなく、特に祈りについて主とやりとりをする必要があります。あなたは特に祈りについて、徹底的なやりとりを持つ必要があります。リー兄弟は、まず「祈りについて祈りなさい」と言いました。

リー兄弟はまた、主に対して誓願を立てるように言われました。あなたの祈りの生活に関して誓願を立てるのです。そのような誓願は、あなたが祈りの人となるという表明、宣言、切望、決意です。あなたは祈る必要があります。リー兄弟は、どのように祈るかについてわ

たしたちを助けてくれました。コロサイ人への手紙のライフスタディの第 65 編を読めばわかりますが、リー兄弟はこのように祈っています、「主よ、わたしはここで天と地を呼んで、わたしの証しとします。今わたしはあなたに誓願をささげます」。これは真剣なものです。これは遊びでやっているのではなく、あなたは決意して、この強い誓願を立てて、約束するのです。誓願は、約束よりも強力なものであり、誓いを伴ったものです。あなたはこう誓願を立てます、「主よ、わたしはこのことを忘れるかもしれませんが、あなたは決して忘れません。わたしが忠信でないなら、リマインドしてください。圧力をわたしにかけてください。わたしが祈るように、リマインドしてください。このことで真剣です。変化が欲しいのです。今からわたしは祈るクリスチャンとなります。わたしはもはや祈りのない人にはなりたくありません」。本当です。兄妹姉妹、主に誓願を立ててください。主に求めて、あなたが忠信に、誓願を果たすことができるようにしてもらおうのです。この地上で、このとりなす方が、この事を取り上げて、それに応答して下さるということを信じるのです。

枠組みを決めて定時の祈りをする

二つ目の点は、毎日一時間以上、時間を取っておいて定時の祈りをする事です。その時間を聖別し、その時間を取っておくのです。その時間において、祈り以外に重要なものはありません。兄妹姉妹、わたしは再び、時間について語っています。この事柄は時間と関係があります。旧約でも新約でも、この定時の祈りというのを実行していました。今日もイスラム教の人たちは、メッカに向かって一日三回祈ります。わたしたちはそのような実行に同意しませんが、わたしたちが敬服する一つの事は、彼らが宗教的ではあっても、一日三回祈っているということです。どうであれ彼らは忠信にそれを行なっています。兄妹姉妹、わたしたちは祈りの事柄に関して、いわゆる「宗教的」になっているのでしょうか？ なぜなら、わたしたちがこのように訓練されていなければ、もしわたしたちがスケジュールどおりに行なわないのであれば、機会を逸してしまいます。時はあっという間に過ぎ去ってしまうでしょう。そういうものなのです。

わたしたちは自分自身を助けてこの事を行なわなければなりません。わたしたちは祈りを重要視しなければなりません。もしわたしたちが祈りを最優先事項としていないなら、これは別の問題です。これらのすべての祈りの時が終わった後に、もしわたしたちが、神のエコノミーにおいて、また神の行動において、祈りが、またとりなしが極めて重要であることを見るなら、どのようなものよりも、祈りを重要視するようになるでしょう。そうして、わたしたちは時間を贖い、決まった時間を取っておくでしょう。リー兄弟はこのように勧めました、「朝に 10 分、昼に 10 分、夜に 10 分取っておくことによって、30 分祈ることができるでしょう」。10 分はあっという間に過ぎ去ってしまいます。

この数週間、わたしたちは 15 分間という時間枠を設定しました。祈って 15 分間経過してみると、その時によく祈り始めたかのような感覚を、わたしたちは経験したと思います。そして、あなたはこの祈りを終えたくなくなるでしょう。難しそうに見えますが、祈り

の負担に、また正常な祈りに触れるとき、あっという間に時間が過ぎてしまうのです。わたしたち主の回復の人たちがみな、この事で決意したとしても、やり過ぎではありません。一日30分以上祈るのです。ある人は仲間と共に、ある人は自分一人で、このように祈るのです。不可能だと言わないでください。わたしたちはこの事柄に失敗してきました。リー兄弟ですら、祈りの事柄で多く失敗してきたと言いました。ですからこの事柄において、互いに助け合って、互いに励まし合って、何ものにも、わたしたちを妨げさせたり、わたしたちの時間を奪い取らせたり、わたしたちの最高の務めを妨げさせたりすることがないようにしましょう。神の御前での最高の務め、最高の奉仕は、祈りです。

わたしは、わたしの祈りの仲間と共に祈りを継続します。わたしは一日三回、さまざまな人と祈っていますが、わたしも継続して行ないます。わたし一人での個人的な祈り以外にこれらの祈りを継続します。わたしはいつこのロックダウン（都市封鎖）が終わるのか、人々が仕事し始めるのかわかりませんが、仕事に行き始めるとしても、また日常が戻ってきたとしても、祈ることは、最初に行なうべきことであるはずで、この実行を過ぎ去らせないでください。このために戦いましょう。兄妹姉妹たち、この時代は変わりつつあります。このコロナウイルスは何かを変えました。それは、わたしたちの召会生活を変えたに違いありません。わたしたちのクリスチャン生活を変えなければなりません。祈りから開始するのです。主の回復は、絶対的に、うまずたゆまず祈ることを、またとりなしの祈りを建て上げなければなりません。

目を覚まして祈る

三つ目の点は、わたしたちが日常生活と歩みにおいて目を覚まして祈ることです。それは、わたしたちの祈りの霊が妥協したり、押しつぶされたりすることがないためです。テモテへの第一の手紙はこう言っています、「男たちは怒ったり議論したりすることなく、あらゆる所で聖い手を挙げて祈ることを、わたしは願っています」(2:8)。兄妹姉妹、わたしはこの「手を挙げる」ということに注意していただきたいと思います。リー兄弟はこのフットノートでこう言っています、「聖い手は、聖い生活、敬虔な、神に属する生活を象徴します。そのような聖い生活は、わたしたちの祈りの生活を強めます。わたしたちの手が聖くなければ、わたしたちの生活は聖くなく、神のためではありません。そして、わたしたちは祈りを支える力を持たず、祈りの中で聖い手を挙げることができません」。それが、体の手を挙げることであるかどうかわかりませんが、主要な事柄は、わたしたちの日常生活の中で聖い手をあげる必要があるということです。

兄妹姉妹、このことを考えてください。もしわたしたちが日常生活において、罪の生活をしてるなら、この世の中で生活しているなら、聖別されていないなら、聖でないなら、あなたはどのように祈ることができると思うのでしょうか？ 祈る心すら持たないと思います。わたしたちは神に対して正しくなければ祈ることはできません。もし聖でない生活をしているなら、神の聖なる性質に反した、俗的な生活をしているなら、祈ることはできないでしょ

う。

わたしは、多くの兄妹姉妹についてとても負担があります。若者たち、もしこのように祈ることで真剣であるなら、この祈りはわたしたちを強いて、聖なる生活を行なわせるでしょう。テサロニケ人への第一と第二の手紙は、聖なる生活についての書です。聖なる日常生活は、召会生活のためです。ですから、わたしたちの祈りが聞かれて、受け入れられて、答えられて、主に喜ばれるためには、まず生活から開始しなければなりません。主の回復の中のわたしたちの奉仕は、賜物と能力を強調しません。むしろ、それはパースンと生活を強調しています。もしわたしたちがこのようなパースンでなければ、このような祈りをすることは絶対にできません。あなたの良心があなたを悩ませるでしょう。あなたは、「自分みたいな者が祈って良いのだろうか」と思うでしょう。兄妹姉妹、わたしは告げますが、このような祈りが、この世から、罪深さから、俗的な生活からわたしたちを救います。わたしたちを救い出します。諸召会、聖なる人たちの一群れが、聖い手を挙げて、至るところで祈る時です。わたしたちはそれを怒ったり、議論したりすることなく行なうのです。

重要なのは、わたしたちの口です。ですから、わたしたちの日常生活の中で、わたしたちの一つの口からは、苦い水か、甘い水かのいずれかしか、出てこないのです。甘い水というのは人を啓発する言葉であり、人に命を供給する言葉、真理の言葉です。これはまた、この祈りの発表、神に対する正しい祈りとなります。そしてもし、あなたの口がいつも、啓発されていない言葉、聖くない言葉を言ったり、何か冗談だったり、ジョークばかり言ったり、いい加減な言葉を使っていたりするなら、祈ることはできません。そのような口では祈ることはできません。わたしたちの口は聖別されなければなりません。イザヤのように、この燃える火ばしによって口を清められる必要があります。わたしたちは汚れた唇の民であるからです。わたしたちは自分の口を清める必要があります。噂話とか、いい加減な会話をしないでください。あなたの口を祈りのために保ってください。

霊を用いて祈る

四つ目の点は、わたしたちは祈るときはいつでも、霊を用いるということです。霊の中で祈ってください。聖霊の中で祈るためには、わたしたちの意志を活用して、力の霊を用いて、冷静な思いを用いて、感情を制御して、愛の霊を活用する必要があります。正しく祈るために、あなたは奮い立たせられる必要があります。自分自身の（霊の）姿勢を正す必要があります。自分自身を制御し、規制する必要があります。そうしてあなたは祈ることができるのです。なぜなら、あなたは今、主を供給しているからです。これは真剣な事柄です。全存在が正しい状態になければなりません。ですから、それは、「怒ったり議論したりすることなく」と言っています。怒りは感情と関係があります。議論は思いと関係があります。あなたが幸いでなく、怒っていて、情緒不安定になっていたら、祈ることはできません。あなたは祈ることはできません。あるいはあなたは議論に満ちていて、そして思いの中で人を責めたり、言い訳を言ったりしているなら、祈ることはできません。ですから、祈りというのは再

び、わたしたちの内なる存在を取り扱うことであり、内なる存在を引き締めることであり、内なる存在を制御することです。そうしてはじめて、正しく祈ることができます。

油塗りにしたがって祈る

五つ目の点は、油塗りにしたがって祈ることを学ぶということです。ローマ人の手紙第8章26節はこう言います、「わたしたちはどのように祈ったらよいかわからないのですが、その霊自ら言い難いうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからです」。その霊は、神にしたがってどのように祈ればよいか、ご存知です。自ら言い難いうめきをもって、祈ることができるようにしてください。それ以外に、ダニエルは一日三回、エルサレムに向かって祈っていました。詩篇55篇17節も一日三回祈ることについて言っています、「夕と朝と真昼に、わたしは嘆き、うめくと、彼はわたしの声を聞いてくださいます」。あなたは、「嘆きとうめき」は好きではないかもしれませんが、新約では、この事を「うめき」と言っており、これは自ら言い難いものを、その霊が知っていて、神にしたがってそれを祈らせるものです。うめくことの中での祈りがそこにあります。

親愛なる兄弟姉妹、わたしたちは祈るとき、思いに従うべきではありません。もちろんわたしたちには祈りの項目がありますが、わたしたちは機械的に、思いに従うのではなく、油塗りに、すなわち、わたしたちの内側におられる行動する霊に触れることを学ばなければなりません。この霊が、わたしたち生かし、わたしたちの中で行動し、導き、方向づけ、そして言葉も与えてくださり、どのように祈るかを教えてください。ですから、多くの時、わたしたちが祈り始める時、性急であってはなりません。わたしたちは主の臨在の中において、主の臨在を感じ、油塗りを見いだして、その油塗りにしたがって祈るのです。思いから素早く祈るのは簡単です。それはどこかで読んだものを、メッセージをするかのようです。そのように祈るではありません。霊を活用して、霊に従って、内なる油塗りに従って祈ってください。そのような祈りはいつも生き生きとしており、人に命を与え、他の人を奮い立たせます。わたしたちはこのようにして、互いの祈りの上に建て上げていくのです。

ですから、わたしたちは主の御前で、個人的に祈るときも、その霊の油塗りにしたがって祈ることを求める必要があります。わたしが主との個人的な時間を過ごすときは、大部分の時、主の御名を呼び求めて、うめいています。このようにして、一見すると、祈っていないようですが、実はこのうめきと霊を、わたしの内側で行動させているのです。その後すぐに、その霊によって、ある思想がわたしの思いに触れます。わたしの思いは、その霊の思いとなつて、その霊の思いと一になります。そうしてわたしたちは正しく神にしたがって祈ることができるようになります。

三種類の祈りを建て上げる：個人的な祈り、二人または三人の祈り、召会の祈り

これらの五つの点をあなたがたに提示しました。今日、わたしたちが建て上げたい祈りは、三種類のものであることを忘れないでください。一種類目は、個人的な祈りです。二種類目

は、二人または三人の祈りです。三種類目は、召会の祈りです。わたしが望むのは、ロックダウン（都市封鎖）が解除された後も、祈りの集会の参加人数が減少しないようにということです。兄妹姉妹、本当にお願ひします。祈りの集会の人数が減少するような事が起こるべきではありません。もしあなたがこのように主にささげているなら、継続することができます。リー兄弟は、励ましの言葉として次のような言葉を与えているので、この言葉をもってこの交わりを結びたいと思います、「もしあなたがこのように祈るなら、大きな祝福が主の回復にもたらされるでしょう。この祝福はわたしたちの個人的な生活に影響を与えるだけでなく、召会生活にも影響を与え、さらには社会にも、近隣の人たちにも、わたしたちの国にも影響を与えるでしょう。わたしたちの国でさえ、このような祈りによって祝福されるでしょう」。もちろん、このような祈りは、主が今日行動したい道を地上に敷くのです。ここで終えたいと思います。アーメン。主があなたがたみなと共におられますように。